

❀単元名『この詩の良さはどこにはあるのか』

教科書P16～17

春に 谷川俊太郎

この気もちはなんだろう  
目に見えないエネルギーの流れが  
大地からあしのうらを伝わって  
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ  
声にならないさけびとなってこみあげる  
この気もちはなんだろう  
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく  
よろこびだ しかしかなしみでもある  
いらだちだ しかもやすらぎがある  
あこがれだ そしていかりがかくれている  
心のダムにせきとめられ  
よどみ渦まきせめぎあい  
いまあふれようとする  
この気もちはなんだろう  
あの空のあの青に手をひたしたい  
まだ会ったことのないすべての人と  
会ってみたい話してみたい  
あしたとあきってが一度にくるといい  
ぼくはもどかしい

このプリントは提出する必要はありません。  
成績には関係ありません。

〔読むことエ〕

文章を読んで考えを広げたり深めたりして、  
人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。〔

地平線のかなたへと歩きつづけたい

そのくせこの草の上でじっとしていたい

大声でだれかを呼びたい

そのくせひとりで黙っていたい

この気もちはなんだろう

課題①「春に」という詩を、言葉に着目しながら音読しよう。

❀ 大声を出す必要はありません。自分だけに聞こえるくらいの大きさで、言葉を丁寧に読んでみよう。

課題②「春に」という詩に遣われている表現技法を見つけよう。

## 参考

冬に

谷川俊太郎

ほめたたえるために生れてきたのだ

ののしるために生まてきたのではない

否定するために生れてきたのではない

肯定するために生れてきたのだ

無のために生れてきたのではない

あらゆるもののために生れてきたのだ

歌うために生れてきたのだ

説教するために生れてきたのではない

死ぬために生れてきたのではない

生きるために生れてきたのだ

そうなのだ私は男で

夫で父でおまけに詩人でさえもあるのだから